

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 2 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 29 年 8 月 17 日 (2017.8.17)

【公表番号】特表 2015-506265 (P2015-506265A)  
 【公表日】平成 27 年 3 月 2 日 (2015.3.2)  
 【年通号数】公開・登録公報 2015-014  
 【出願番号】特願 2014-547909 (P2014-547909)  
 【国際特許分類】

B 0 1 J 23/10 (2006.01)  
 B 0 1 J 32/00 (2006.01)  
 B 0 1 J 37/03 (2006.01)  
 B 0 1 D 53/86 (2006.01)  
 F 0 1 N 3/10 (2006.01)

【F I】

B 0 1 J 23/10 Z A B A  
 B 0 1 J 32/00  
 B 0 1 J 37/03 B  
 B 0 1 D 53/36 C  
 F 0 1 N 3/10 A

【誤訳訂正書】  
 【提出日】平成 29 年 5 月 8 日 (2017.5.8)  
 【誤訳訂正 1】  
 【訂正対象書類名】特許請求の範囲  
 【訂正対象項目名】全文  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

酸化物の観点から 60 ~ 98 質量%のセリウム含有元素であって、酸化物の観点から質量で 85 : 15 ~ 100 : 0 で、セリウムと、セリウム以外の希土類金属元素、ジルコニウムおよびケイ素からなる群から選択される少なくとも 1 つの元素と、からなるセリウム含有元素と、

酸化物の観点から 1 ~ 20 質量%のアルカリ土類金属元素と、

$Al_2O_3$  の観点から 1 ~ 20 質量%のアルミニウムと

を含む複合酸化物であって、前記複合酸化物が、2 時間 800 ° での焼後に BET 法によって測定されるように  $40 m^2 / g$  以上の比表面積を示し、かつ 2 時間 800 ° での焼後に X 線回折によって測定されるように、 $AECeO_3$  相 (ここで、AE はアルカリ土類金属元素を表す) をまったく持たず、かつ 15 nm 以下の (111) 面での  $CeO_2$  結晶子サイズを持つという特性を有する複合酸化物。

【請求項 2】

前記セリウム以外の希土類金属元素が、イットリウム、ランタン、プラセオジウム、ネオジウム、サマリウム、ユーロピウム、ガドリニウム、テルビウム、ジスプロシウム、ホルミウム、エルビウム、ツリウム、イッテルビウム、ルテチウム、またはこれらの 2 つ以上の混合物である、請求項 1 に記載の複合酸化物。

【請求項 3】

前記アルカリ土類金属元素がバリウムを含む、請求項 1 又は 2 に記載の複合酸化物。

【請求項 4】

前記アルカリ土類金属元素の含有率が酸化物の観点から 1 ~ 15 質量%である、請求項

1 ~ 3 のいずれか一項に記載の複合酸化物。

【請求項 5】

前記複合酸化物が、2 時間 8 0 0 での焼後に B E T 法によって測定されるように  $50 \text{ m}^2 / \text{g}$  以上の比表面積を有する、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の複合酸化物。

【請求項 6】

( A ) そのセリウムイオンの 9 0 モル % 以上が 4 価であるセリウム溶液を提供する工程と、

( B ) 工程 ( A ) から得られた前記セリウム溶液を 6 0 以上まで加熱し、6 0 以上において溶液を保持してセリウム懸濁液を得る工程と、

( C ) 工程 ( B ) から得られた前記セリウム懸濁液にアルカリ土類金属酸化物および酸化アルミニウムの少なくとも前駆体を添加して懸濁液を得る工程と、

( D ) 工程 ( C ) から得られた前記懸濁液を 1 0 0 以上まで加熱し、1 0 0 以上において前記懸濁液を保持する工程と、

( E ) 工程 ( D ) から得られた前記懸濁液に第 1 沈澱剤を添加して前記アルカリ土類金属元素以外の元素を沈澱させる工程と、

( F ) 第 2 沈澱剤を添加して前記アルカリ土類金属元素を含有する沈澱物を得る工程と、

( G ) 工程 ( F ) から得られた前記沈澱物を焼する工程とを含む、請求項 1 から 5 のいずれか一項に記載の複合酸化物の製造方法。

【請求項 7】

工程 ( C ) で、セリウム以外の希土類金属元素、ジルコニウムおよびケイ素からなる群から選択される少なくとも 1 つの元素の酸化物の前駆体が、工程 ( B ) から得られた前記セリウム懸濁液にさらに添加される、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

前記セリウム以外の希土類金属元素が、イットリウム、ランタン、プラセオジウム、ネオジウム、サマリウム、ユーロビウム、ガドリニウム、テルビウム、ジスプロシウム、ホルミウム、エルビウム、ツリウム、イッテルビウム、ルテチウム、またはこれらの 2 つ以上の混合物である、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

アルカリ土類金属酸化物の前記前駆体が、酸化バリウムの前駆体を含む、請求項 6 ~ 8 に記載の方法。

【請求項 1 0】

請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の複合酸化物を含む排ガスを精製するための触媒。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 1】

本発明によれば、

酸化物の観点から 6 0 ~ 9 8 質量 % のセリウム含有元素であって、酸化物の観点から質量で 8 5 : 1 5 ~ 1 0 0 : 0 で、セリウムと、イットリウムを含むセリウム以外の希土類金属元素、ジルコニウムおよびケイ素からなる群から選択される少なくとも 1 つの元素と、

からなるセリウム含有元素と、

酸化物の観点から 1 ~ 2 0 質量 % のアルカリ土類金属元素と、

$\text{Al}_2\text{O}_3$  の観点から 1 ~ 2 0 質量 % のアルミニウムと

を含む複合酸化物であって、前記複合酸化物が、2 時間 8 0 0 での焼後に B E T 法によって測定されるように  $40 \text{ m}^2 / \text{g}$  以上の比表面積を示し、かつ 2 時間 8 0 0 での焼後に X 線回折によって測定されるように、 $\text{AECeO}_3$  相をまったく持たず、かつ 1 5 nm 以下の ( 1 1 1 ) 面での  $\text{CeO}_2$  結晶子サイズを持つという特性を有する複合酸化物

が提供される。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0025

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0025】

セリウム含有元素は、酸化物の観点から質量で 85 : 15 ~ 100 : 0 で、セリウムと、  
イットリウムを含むセリウム以外の希土類金属元素（本明細書では以下特定の希土類金属  
元素と言われる）、ジルコニウムおよびケイ素からなる群から選択される少なくとも 1 つ  
の元素とからなる。セリウム含有元素が特定の希土類元素、ジルコニウム、およびケイ素  
からなる群から選択される少なくとも 1 つの元素を必然的に含有する場合、セリウム対こ  
の元素の比は好ましくは 85 : 15 ~ 95 : 5 である。